

令和4年度 第4回地域福祉推進会議 会議録

【日 時】令和5年1月30日（月）午後1時30分～午後3時20分

【会 場】磐田市豊田支所 大会議室

【出席者】14名

【欠席者】1名

【事務局】13名

1 あいさつ

2 議事

(1) 第4次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画中間案について

配付された資料に基づき、事務局から説明。その後意見交換がされた。発言の概要は以下のとおり。

《第1章・第2章について》

委員長 SDGs が地域福祉とどう関連しているか、どのように伝えていくか、難しいところ。説明が欲しい。

委 員 1・2章は今の社会情勢を大変よく捉えている。どうやって一緒に住民同士が対話して考えてSDGsに結びつけていくか。結びつけるきっかけが大事。グループワークや協議をさらに進め、ここから活動が広がってほしい。また、若い人も含めて住民に納得して関わってもらえるようにしたい。

委 員 高齢者が増えている中で、誰一人取り残さない取組が必要である。デジタル化が進んでいるが、QRコードや電子申請など、対応できなくて情報を取れない人を取り残さないように支援したい。具体的にはPDCAを回す中で取り組んでいきたい。

委員長 総論として、3つの柱の方向性をしっかり捉えていきたい。高齢者が増えても、高齢者が活躍できている社会は、未来志向の取り組みができています。

委 員 シニアクラブという表記もあるが、公的には老人クラブが正しい。中身については、しっかり分析し作成されている。コロナの3年間で、地域の連帯意識やつながりが希薄になっていることがとても気になっている。言うことは言っても行動しない人も多い。デイサービス利用者が増え、元気な高齢者が地域に少なくなっている。そのような場合にどう対応したらよいか。

委 員 年代差の問題かもしれないが、元に戻すという言葉よりも再構築するイメージが必要である。現状から作り直すという感覚である。現状をよく見て新たに作り上げていくという気にならないと難しいと思われる。

委員長 地域のつながりや支え合いが大切である。

《第3章について》

意見なし。

《第4章について》

○基本目標1

委員 P39 その他の事業に、福祉避難所の体制整備と記載されているが、身体障害者福祉会と福祉課で話し合いをした。もう少しきめ細かな体制整備をお願いしたい。

委員長 基本目標2の内容なので後ほど話をしたい。まず担い手づくりについて意見をお願いしたい。社協の事業に積極的に「学校と地域」というテーマが出てきていてもいいのではないかと。保護者も交えて開かれた学校づくりが行われているが、社協の考え方はいかがか。

事務局 ご指摘のとおりであり重要で不可欠。P29に掲載している。学校運営協議会やコミュニティスクール等とも連携を深めていきたいと考えている。

委員 学生について。自分の地域では、中学生のボランティア育成を行っている。地域の手伝いをして、高齢者や地域のことを知ってもらう機会としている。中学校に行き、3年生に地域のお手伝いをお願いしている。

委員長 良いモデルができるとよい。大学生がいきなりボランティアに目覚めることはない。小中高と経験していた子どもが大学生で大きく花開く。

委員 田原小学校で子どもを考える会に参加した。福祉教育という訳ではなく、田原小学校に対して子どもたちの作った俳句を高齢者に配ったらどうかという提案をした。地区社協でハガキを用意して実施した。3~4割の高齢者から返事があり、子どもたちが大変感激したとのことであった。人とのふれあいを実感してもらえる機会を作っていきたい。

委員長 情報発信力は強いものではないので、実践の取り組み事例を情報提供していくことで地域が立ち上がるきっかけになる。

委員 「福祉の心を育む福祉教育」とは何か。人間として生きる基本的なものではないか。体験だけではなく、生き方を教えることが大事。人や地域を大切にすること、そこを捉えていかないといけないのではないかと。

委員長 恩師が本来は人間はやさしく清らかなものと言われていたことを思い出した。

委員 磐田では小中一貫教育として、ながふじ学府が動き出し地域の人が集う場ができている。福祉をテーマとして、エリアの人たちと地域づくり協議会の方々をつなげていくのが社協の役割である。期待したい。

○基本目標2

委員長 先程の高橋委員からのご意見から話をしたい。福祉避難所は作るけど、情報は教えないという説明をある自治体の担当者から受けたことがある。本当に必要な方が必要な場所を提供されるようになるにはどうしたらよいかと考えた。BCPの考え方も必要。実際に被災したときにどのような対応となるのか。実際に地域の中で学び合いがあると良いのでは。

委員 P38 市民・地域の方が取り組むことの記載で、「認知症」という言葉に引っかかる。「支援が必要な方」などの表現にした方がよい。向こう三軒両隣がうまく機能すればよいが、監視にならないような関係が必要である。さりげない見守りの方法を提案していきたい。課題である。

委員長 ある市で、「自殺や引きこもりの課題が地域福祉計画になじむか」という質問を受けたことがある。「お気づきになるならば入れてみては」と助言した。

事務局 福祉避難所について市の対応を検討している。高齢者、障害の受け入れや市役所内部での対応もまだ検討が必要な状況である。取り組みを進めていく。

○基本目標3

委員長 支援体制づくりは、いわゆる重層的支援体制をどう構築するか。専門機関だけではできない取り組みなので、地域でどう取り組むかご意見をお願いしたい。

委員 P44 相談支援体制の強化の欄だが、包括を特出しにしてあるが、他のセンターの内容は紹介しないのか。

事務局 他にもたくさんあるが、相談支援体制の強化の中に、それぞれ1つずつ掲載するスペースの余裕がなく、代表の1つとして包括を掲載した。

委員長 包括の認知度は高く、包括がプラットフォームの要であるが、なじみがないセンターもどこかで紹介できるといいのではないか。例えば子育て支援センター、発達支援センター、こども・若者相談センターなど、市の施策として取り組むことについて本市のポリシーとして強調しても良いのではないか。

事務局 事務局内で検討する。

委員 「多機関支援体制の協働整備」について記載があるが、縦割りをこえて協働の支援体制を進めていただくことに期待している。社協の取り組みの中にも話し合いを重視する記載があるということが大事なポイントである。これにより、市民側も「私たちに何ができるか」という気持ちになれる。

委員長 市民に対する見える化が大切である。市民に対する仕掛けになる。

○成年後見、その他全体の意見

委員長 成年後見制度を地域福祉の視点でしっかり位置づけておくことが必要である。みなさんにとって他人事ではないということである。

委員長 P6 イメージについて。地域の範囲のイメージで第1層・第2層の協議体についての考え方が入っていない。話題としてはところどころで出ていたが、地域（圏域）の範囲のイメージにあった方が良い。

委員 市社協のマイクロバス使用について。4月から土日は貸出しができないと言われた。今一度社協で検討していただきたい。

委員長 別途個別対応をお願いしたい。

○社協の追加提出資料（懇談会等の別冊報告書）について

委員 すばらしい資料。自分の地域だけを見るのではなく、他の地域こそ見なければいけない資料である。地域課題をどのように捉えているか、どのように深堀りしているか。各地域での話し合いの材料になるといい。

委員長 この資料はテキストマイニング等を使って分析しており、自分の地域の話題を整理して話し合うきっかけになる。社協がそこに関われば、ファシリテーションの場面が生まれる。別冊資料になっているのは初めて見た。一步を踏み出すきっかけにな

るのでは。

委員 静岡新聞が4月から夕刊を廃止する。毎日1回の配達になる。今までよりも見守りの頻度が少なくなってしまうことを心配している。雇用形態を変えることになり、アルバイトが多くなる体制になる。アルバイトに対してどれだけ見守りを徹底できるか心配。また、引きこもり支援について、元ひきこもりの社員が1人いる。元々母親が新聞店で働いており、相談を受け働いてもらっている。朝は人と会わないので、働きやすいと考えられる。他でも同様の事例を聞いたことがある。市でもそのような話があれば、社会復帰の第一歩として考えていただければ我々もお手伝いしていきたい。

委員 たいへん参考になった。P6の図にあるように地域にどのように下ろしていくかが課題である。いろいろな団体とどのように連携していくか、一般市民や自治会とどう連携するか、考えていく必要がある。若い方と接していく中で感じることだが、「〇〇をやろうね」というように若者は前向きな言葉で話している。そのような意識を大切にして、福祉をとらえたい。福祉の社会化、社会の福祉化を進める上で、偏らないで窮屈な社会にならないようにしていきたい。これからの年齢構成を考え、各種団体がどう捉えるかが大切であると感じた。

(2) パブリックコメントの実施について

事務局から説明。

3 その他

次回 日時 3月13日(月)午後1時30分から3時

会場 豊田福祉センター大会議室

4 閉会